

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	常葉大学短期大学部
設置者名	学校法人常葉大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>12月中旬より授業科目担当者に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼し、1月上旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。</p> <p>その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。</p> <p>3月下旬から本学ホームページ上にてシラバスを公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tokoha-jc.ac.jp/campuslife/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業担当者は、シラバスの中に成績評価の方法・基準について、試験、レポート、受講態度など担当する授業の特性にあった適切な方法を記載している。</p> <p>成績評価について、教員は成績評価規程の基準を踏まえ、学習成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えているとともに、学生に対しては、成績評価に対する異議申し立ての機会を与えている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生の成績評価方法の一種で本学では学習意欲の向上、学習指導への活用等を目的にGPAを導入している。</p> <p>GPAの計算方法については、学生便覧に記載するとともに、学生便覧をホームページにおいて公表している。</p> <p><GPAの計算方法> 「秀」=4ポイント、「優」=3ポイント、「良」=2ポイント、「可」=1ポイント、「不可」=0ポイント</p> $\frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数}}$	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.tokoha-jc.ac.jp/campuslife/syllabus/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科・専攻科とも卒業認定に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ、卒業や修了を認定している。</p> <p><日本語日本文学科> 所定の単位を修得し、ライフデザイン力として、主体的に学び続ける姿勢を身に付けることをめざします。</p> <p>また、次の内容を満たすことも求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科の教育理念「自主独行」に従い、自らの目的に応じた科目選択・単位修得ができてきていること。 ② 日本語や日本文学、日本文化の基礎がどれほど身につけられたかは卒業研究で判断される。この研究を作成する過程で、情報を収集する力、情報を考察する力、論理を構成する力、文章をまとめ、発表する力を身につけていること。 ③ 授業や行事を通じて、判断する力、協働する力、企画する力などを育成していること。 <p><保育科> 保育者としての実践力を修得し、子ども観・保育観を身につけ、子どもと一緒に生活を考え続けることができ、社会の一員として協働し、貢献できる知性と教養を修得できた者に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保育者としての関心、意欲、熱意を身につけている。 ② 保育及び家庭支援に関する専門的知識と実践力を身につけている。 ③ 保育にふさわしい環境を理解し、子どもと一緒に生活を上げる実践力を身につけている。 ④ 知性と教養を修得し、社会の一員として、また保育者として貢献する意欲を身につけている。 	

<音楽科>

音楽の基本的な知識・能力を理解・習得し、演奏・創作技術を身に付けると共に、学んだ様々な知識を総合的に活用して自らの表現を探求し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決できる力を身につけた者に卒業を認め、学位を授与します。

具体的な目標として、次のような学修成果を求めます。

- ① 理論や歴史など、音楽の基本的な知識の概略を説明できる。
- ② 楽譜を正しく読み書き、的確に聞き取り、また音にすることができる。
- ③ 演奏・創作技術の向上を図るだけでなく、自らの表現を探求するとともに自身の課題を的確に把握して研究方法などを考え、あるいは助言を求めるなど、問題を解決するために適切に判断することができる。

<専攻科音楽専攻>

音楽家としての作曲と演奏技術や専門知識を習得し、発表の準備を自らの力で進めるための主体的に学び考える力、そのマネジメント力、さらに共演者や社会と係わるコミュニケーション力を培うことができた者に、修了を認めます。

- ① 自らの創意工夫による豊かな表現のため、確かな作曲と演奏技術を身につける。
- ② 自らの創意工夫による豊かな表現が裏打ちされたものとなるよう、確かな知識を身につける。
- ③ 作曲と演奏に必要な作品研究や作曲と練習活動を、自ら考え実行できる判断力、自律性を身につける。
- ④ 自らの考えを他人に的確に伝え、また、他人の考えを聞いて意見交換できるコミュニケーション能力を身につける。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.tokoha-jc.ac.jp/overview/disclosure/stats/information-disclosure06/>